

## 1. サービス仕様

当社は、GitHub, Inc.が提供するソースコード管理製品である「GitHub Enterprise」(以下「本サービス」という)を利用した、以下の機能を契約者(以下「契約者」という)に提供します。本サービスの提供プランは別表1に記載の内容から選択可能です。

※本サービスは新規申込受付を停止しています

### (1) GitHub Enterprise 基本機能

#### ① ソースコードリポジトリ

バージョン管理システムである Git をベースに作られたソースコードリポジトリを提供します。開発したソースコードがソースコードリポジトリに反映される際には、変更内容を他の開発者に通知することができます。

#### ② ソースコードレビュー

Web 画面上でソースコードのレビューおよびレビューコメントの入力を行うことができます。

#### ③ 課題管理

課題に対して、任意のラベルを用いて分類すること、マイルストーンの設定、および担当者設定ができる課題管理機能を提供します。

### (2) GitHub Enterprise 追加機能

#### ① ソフトウェア開発ワークフロー機能(GitHub Actions)

各種イベントをトリガーとしてワークフローを起動できます。

#### ② パッケージ管理機能(GitHub Packages)

ソフトウェアやコンテナのパッケージを管理することができます。

### (3) インフラ環境構成

本サービスでは、お客様ごとに仮想サーバを構築し、GitHub Enterprise を提供します。アクティブスタンバイ冗長化構成および日次バックアップ機能を標準で提供します。また、以下のインフラ設定が可能です。

#### ① FQDN/証明書持ち込み設定(新規申込を停止しています)

利用開始時には当社ドメインの FQDN を契約者に提供します。本機能により、契約者は、自身の保有するサーバ証明書とそれに紐づく FQDN を本サービスにおいて設定し利用することができます。また、DNS サーバの登録に必要な環境情報を契約者に提供します。

#### ② アクセス元 IP アドレス制御設定

利用開始時には、本サービスは常にインターネットに公開された状態となります。本機能により、契約者は、利用者が使用するポートに対し、指定したグローバル IP アドレスにアクセス元を限定することができます。

#### ③ GitHub Migrations 設定

GitHub Migrations に関する設定が可能です。

### (4) GitHub Connect オプション

GitHub Connect を有効化することで GitHub, Inc.の提供するクラウドサービス GitHub.com からデータを取得し、本サービスで提供する GitHub Enterprise 基本機能と連携させることができます。

### (5) Runner オプション

本サービスのソフトウェア開発ワークフロー機能(GitHub Actions)と連携する契約者専用のセルフホストランナーを1台提供します。本オプションが提供するセルフホストランナーは Linux ベースで、4CPU、8GB のメモリ、30GB のディスクを搭載しています。本オプションは複数の申込が可能です。

## 2. 本サービスは、以下のリージョンで提供されます。

- ・下記以外：東日本リージョン 1
- ・Runner オプション：東日本リージョン 3

## 3. 制限事項・注意事項

### 3-1. GitHub Enterprise 基本機能・GitHub Enterprise 追加機能・インフラ環境構成・GitHub Connect オプション

- (1) 本サービスのユーザーアカウント数の上限は、当社の管理用ユーザーアカウントを除き、1,000 です。これを超える場合は事前にご相談ください。なお、ユーザーアカウントとは、人またはマシン毎に設定する本サービスを利用する単位をいいます。
- (2) 本サービス提供開始時に登録されている当社および契約者の管理用ユーザーアカウントについては、削除しないようご注意ください。
- (3) 本サービスにより提供される環境については、アクセス元 IP アドレス制御設定を利用しない場合は、本サービスは常にインターネットに公開された状態となります。本サービスのセキュリティについては契約者が単独で責任を負うものとします。
- (4) 本サービスの利用にあたっては、「GitHub Customer Agreement」に定める条件を遵守してください。
- (5) GitHub Connect オプションの利用にあたっては「GitHub Connect Addendum to the GitHub Enterprise License Agreement」に定める条件を遵守してください。
- (6) GitHub Connect の機能は GitHub Connect オプションを選択することで利用できます。なお、GitHub Connect オプションについて、GitHub Enterprise 1 契約につき複数の申し込みはできません。
- (7) 本サービスで提供する GitHub Connect の機能は、オンプレミス版 GitHub Enterprise (GitHub Enterprise Server) で利用可能な機能のみになります。そのため、GitHub, Inc. のクラウドサービス GitHub.com 上で利用する機能は提供対象外となります。
- (8) 本サービスの利用により保持されるソースコードおよびドキュメント等の管理については、契約者が単独で責任を負うものとします。
- (9) 本サービスを提供する GitHub Enterprise のバージョンを契約者が指定することはできません。
- (10) 本サービスを提供する GitHub Enterprise サーバでは、git コマンド利用時の SSH 通信において、様々な強度の暗号化アルゴリズムを利用できるように設定しています。SSH 通信におけるセキュリティ強度を上げる場合は、契約者が暗号化アルゴリズムを指定して SSH 通信してください。本サービスを提供する GitHub Enterprise サーバでは、任意の SMTP クライアントからのメール受信時に匿名暗号方式を許容する設定となっています。GitHub Enterprise サーバに対してメールを送信する場合は、利用する SMTP クライアント側でサーバ証明書の検証を省略しないよう設定し、契約者の責任にてセキュリティを担保してください。
- (11) 本サービスを提供する GitHub Enterprise サーバでは、Webhook 機能 (GitHub Enterprise 内で起きたイベントを外部サービスに通知する機能) を利用できますが、当該外部サービスのサーバの利用可能なアクセスポートは、http(80)および https(443)のみです。
- (12) GitHub Enterprise 追加機能を利用するためには、Runner オプションを利用するか、契約者にてセルフホストランナー用の環境を用意してください。オブジェクトストレージに格納されるデータについては、アクティブスタンバイ冗長化構成および日次バックアップ機能の対象外となります。
- (13) GitHub Enterprise 追加機能のソフトウェア開発ワークフロー機能(GitHub Actions)を利用する場合、別表 1 記載の基本機能においてアドバンスドプランを選択いただく必要があります。
- (14) FQDN/証明書持ち込み設定を利用する場合は、サーバ証明書は契約者が用意する必要があります。また DNS サーバへの登録をする場合は、契約者の保有する DNS サーバに契約者が登録する必要があります。
- (15) アクセス元 IP アドレス制御設定を利用する場合、当社の管理者が利用する IP アドレスについて、契約者は許可の設定をしてください。
- (16) 本サービスにおいて、GitHub Migrations の設定を利用して、ソースコードリポジトリの移行アーカイブ先として指定できるのは Amazon S3 のみです。なお、Amazon S3 の領域は契約者が用意する必要があります。
- (17) ソースコードリポジトリの移行にあたって、契約者は、GitHub Migrations の設定において有効な Amazon S3 を設定し、維持するものとします。無効な設定が確認できた場合は、当社で GitHub Migrations の設定を変更または無効化できるものとします。
- (18) GitHub Migrations は設定のみを承ります。移行ツールおよび移行作業についてはサポート対象外となります。

### 3-2. Runner オプション

- (1) ワークフローは必ず本オプションで提供するセルフホストランナー上のコンテナ内で実行してください。
- (2) 一般公開されているコンテナイメージをワークフローの実行に利用する場合は、提供元が信頼できることを確認

してください。契約者が利用したコンテナイメージにより契約者または第三者に生じた損害について、当社は何ら責任を負わないものとします。

- (3) 本オプションで提供するセルフホスランナーからインターネットへの通信は **HTTPS** 通信および **HTTP** 通信のみが利用可能です。
- (4) 本オプションで提供するセルフホスランナーの負荷の影響等によりワークフローの実行が失敗する場合があります。ワークフローの実行結果を必ず確認してください。
- (5) 本オプションで提供するセルフホスランナーの仕様変更により契約者側で **GitHub Enterprise** へのセルフホスランナー再登録やワークフロー定義の変更が必要になる場合があります。

以 上

別表 1 GitHub Enterprise 提供プラン一覧

本サービスでは以下の構成（専有環境）を提供します。

・基本機能

構成	ユーザー規模 (目安)	メモリ	データディスク容量	オブジェクトストレージ容量	FQDN / 証明書持ち込み設定利用可否	アクセス元 IP アドレス制御設定利用可否
ベーシック	1~10 名	32GB	200GB	600GB	—	—
スタンダード					○	○
アドバンスド	1~3,000 名	64GB				

- ベーシックプランについては、新規申込を停止しています。
- オブジェクトストレージについては、利用ユーザー100 ユーザーごとに 600GB(最大 4800GB まで)追加可能です。
- FQDN/証明書持ち込み設定利用については、新規申込を停止しています。証明書持ち込み設定については、すでに適用済みの環境に対してのみ提供します。

・ユーザーライセンス

・データディスク拡張オプション

- データディスク容量は以下の拡張オプションを選択することで、初期データディスク容量の 200GB に加えて容量を追加することができます。本オプションは GitHub Enterprise 1 契約につき 1 契約まで契約可能です。なお、当該拡張オプションにより拡張したデータディスク容量を縮退することや、拡張オプション単体での解約はできません。
- 基本料金プランを解約（利用終了）すると自動的にデータディスク拡張オプションも解約（利用終了）となります。

データディスク拡張オプション容量
100GB
200GB
500GB
1TB

・GitHub Connect オプション・Runner オプション

- 基本料金プランを解約（利用終了）すると自動的に GitHub Connect オプション・Runner オプションも解約（利用終了）となります。

以上

附則（2021年10月1日）

本サービス仕様書は、2021年10月1日から適用されます。

附則（2022年7月1日）

本サービス仕様書は、2022年7月1日から適用されます。

附則（2022年8月1日）

本サービス仕様書は、2022年8月1日から適用されます。

附則（2023年3月16日）

本サービス仕様書は、2023年3月16日から適用されます。

附則（2023年4月20日）

本サービス仕様書は、2023年4月20日から適用されます。

附則（2023年6月16日）

本サービス仕様書は、2023年6月16日から適用されます。

附則（2023年11月16日）

本サービス仕様書は、2023年11月16日から適用されます。

附則（2024年10月1日）

本サービス仕様書は、2024年10月1日から適用されます。